

公益財団法人 おかやま環境ネットワーク

～2021年度事業・決算報告 2022年度事業計画・予算～



設立20周年記念シンポジウム

～ 目次 contents ～

2021年度事業報告	P. 1～13
2021年度財務諸表等・監査報告書	P.14～18
2022年度の事業計画・収支予算書	P.19～20
2030年に向けた組織行動方針	P.21
おかやまの豊かな自然とくらしを考える部会の設置	P.22
定款	P.23～26

平素より格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

本誌を通じておかやま環境ネットワークについて一層のご理解を賜り、身近に感じていただければ幸いです。

今後も変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

※活動は皆様のご支援に支えられています。ご入会・ご寄附等のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



公益財団法人 **おかやま環境ネットワーク**

Okayama Environment Network Foundation

～かけがえのない地球、未来のこどもたちへ～

2021年度の事業報告

(2021年04月01日～2022年03月31日)

1. はじめに

- ①財団設立20周年を迎え、記念事業として財団設立20周年記念シンポジウムの開催と記念誌の発行を行いました。
- ②昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、多くの事業を中止せざるを得ない事態となりました。
- ③2030年に向け、理事会で協議を重ね、長期ビジョン（骨子）、活動テーマの整理、具体化が必要な行動計画などをまとめました。

2. 公益事業1

(1) 助成事業

①助成活動報告会

- 1) 2020年度の助成5団体による報告会を、5月15日オンラインで実施しました。2021年度の助成団体（初回4団体）も参加し、助成活動報告の提出方法等も確認しました。

	助成団体名	助成企画名
1	あかいわ美土里の和	里山再生プロジェクト
2	つやま演劇教育研究会	演劇・番組製作を介した環境問題啓発事業の周知・促進
3	おかやまエコマインドネットワーク	もったいない！～食品ロスを減らそう！
4	旭の自然を守る会 ※	冊子シリーズ「旭の里山・生きもの写真集 (岡山県美咲町旭地域)」作成事業
5	なださきホテルの会 ※	各年間活動事業
6	旭川源流大学実行委員会	岡山県内の底生動物調査③
7	うみもりプロジェクト ※	もかけの海をきれいにしよう
8	#おかやま JKnote ※	高校生による食品ロス削減啓発「もったいない屋台」の運営
9	岡山学芸館高等学校医進サイエンスコース	アマモ実生苗育成における栄養塩類濃度および米子湾干潟物質生産量評価

②助成部会

- 1) 2021年度は、9団体に97万円の助成を行いました。

年度	団体数	金額									
1999	5	65	2005	15	147	2011	12	100	2017	8	100
2000	7	100	2006	15	129	2012	6	90	2018	5	54
2001	13	110	2007	12	120	2013	8	102	2019	8	102
2002	13	137	2008	15	150	2014	10	126	2020	5	66
2003	16	150	2009	11	94	2015	11	175	2021	9	97
2004	11	102	2010	10	93	2016	9	95	合計	225	2,504

- 2) 2022年度の助成申請の審査、助成募集要項及び助成活動報告の開催について協議しました。
- 3) 助成団体が企画する行事等に事務局が参加し、助成金の使用状況等を含め情報収集を図りました。

日程	企画名称など	備考
04/24 (土)	うみもりプロジェクト「扇海岸クリーンアップ」	助成対象
06/19 (土)	美土里の和主催「碧山陰陽石に沈む夏至の夕日とホテルを見る会」	助成対象
07/11 (日)	エコマインド主催「映画『プラスチックの海』上映会」	後援
07/11 (日)	美土里の和主催「わくわく自然観察会」	助成対象
10/17 (日)	エコマインド主催「映画『もったいない！キッチン』上映会」	助成対象
11/03 (水)	エコマインド主催「もったいない！～食品ロスを減らそう～」	助成対象

- 4) あかいわ美土里の和より、国土緑化推進機構主催「ふれあいの森林づくり」コンクールに岡山県推薦で応募し、岡山県初の国土緑化推進機構会長賞を受賞したとの報告をいただきました。

(2) ホタル保護事業

①ホタル団体交流会

- 1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年間3回（4月開催・8月中止・10月開催・11月開催）開催となりました。
- 2) 10月度交流会では、21年夏の県内各地の飛翔情報と水温調査等のデータを持ち寄りました。2020年は、多くの地点で昨年より早く幼虫上陸が始まったこと、飛翔はほぼ同じタイミングだったこと、昨年来を上回る飛翔数だったこと等が報告されました。3カ所（北房・大野川・由加）でスタートした幼虫上陸・飛翔時期と水温と関係調査では、幼虫上陸時の水温と上陸までの積算水温の追加調査が必要なことなどを確認しました。奥迫川で8月以降もヘイケが飛翔しているとの報告を受けた追加調査では、9月以降も川底でヘイケ幼虫が点滅している様子を確認しました。
- 3) 交流会として、4会場（西大寺山南ホタルの里、奥迫川ホタル、御津大野川、村田製作所ピオトープ）でのホタル観察会を計画しましたが、新型コロナウイルス感染の影響で全会場中止となりました。

(3) 支援環境の研究・交流

①里海づくり推進部会

- 1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、4回（5月開催・7月開催・9月中止・11月開催・2月開催）の開催となりました。

②アマモ場再生活動支援

- 1) 日生でのアマモ場再生活動は、アマモ種取り&生き物調査会（6月5日）、アマモ種選別&種まき（9月18日）は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止としました。種取りは、6月8日に日生漁業協同組合と備前市が中心となって実施しました。秋の種まきの準備は、日生中学校を中心に進められました。

③シンポジウム

- 1) 2年連続で開催延期とした『里海シンポジウムin笠岡～豊かな海の再生・増やそう海の応援団～』を目指しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催を延期し、参加予定団体によるDVDを作成しました。

(4) 広報、事業決算報告、ニュース発行

- ①メールニュースの発行（月2回）とホームページやfacebookの更新で、情報報告をすすめました。関係団体による発信要望を含め、行事案内をすすめました。
- ②活動紹介パンフレットや事業・決算報告書を様々な機会に配布し、活動紹介とともに新規会員の獲得を図り、10会員（個人8・団体2・企業0）の入会がありました。
- ③情報発信ツールが整備されていない団体が多数ある中で、団体間のネットワークづくりに向け、SNSなど共通媒体のさらなる活用方法の検討を進めます。
- ④財団設立20周年を記念して記念誌を発行しました。設立20周年記念シンポジウムにお寄せいただいたメッセージ、基調講演、パネルディスカッションの様子や、助成活動報告、ホタルフォーラム、各種シンポジウムの記録とともに、2030年に向けた財団の行動方針を掲載しました。

(5) 環境家計簿活動事業

①環境家計簿登録モニター

- 1) 2020年のモニター数は、128世帯（前年129世帯）となりました。2019年と2020年の連続2年間分の全データが揃った109世帯の実績集計では、2019年比では1世帯当たりのCO₂排出量は97.0%と減少、2013年比では65.1%と大きく減らすことができています。

②環境家計簿レポート、環境家計簿カレンダー

- 1) モニター実績をまとめ、岡山市と協働で環境家計簿レポート（6月）を発行しました。
- 2) 各家庭でのエネルギー使用の抑制、外出先でのゴミ捨て方やエシカル消費の視点など、環境にやさしい暮らしの実現に役立つ情報を分かり易く提供するツールとして、岡山市と協働で環境家計簿カレンダー（11月）を発行します。

月	テーマ	月	テーマ
01月	2050年二酸化炭素排出実施ゼロ宣言	07月	日傘デビュー
02月	住宅の断熱効果	08月	エシカル消費
03月	ZEH	09月	電気自動車
04月	家電買替効果	10月	V2H
05月	食品ロス	11月	海ごみ
06月	異常気象	12月	生物多様性危機
特集	①オーバーシュート・デー ②バーチャル・ウォーター		

- 3) 環境家計簿委員会では、環境家計簿レポート、環境家計簿カレンダーの原稿作成をすすめました。

(6) 協働事業：他団体や行政などとの関係

①水環境フォーラム

- 1) (社)日本水環境学会中国四国支部岡山地域分科会、岡山理科大学環境教育地域支援研究会と7月に共催した水環境フォーラムは、「水処理プロセスの設計・制御におけるデータ活用の新展開」をテーマに、安井英斉氏（北九州市立大学国際環境工学部・教授）「汚水をサンプリングすることなく、その濃度を把握する方法」、西村文武氏（京都大学工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター・准教授）「下水処理プロセス制御におけるデータ活用の更なる可能性と課題」、圓佛伊智朗氏（(株)日立製作所・研究開発グループ日立研究所・主管研究員）「上下水処理プロセス制御の高度化と導入課題」の講演をオンラインで行い、人工知能の水道・下水道の水処理プロセスへの導入事例や将来像を考える場となりました。
- 2) (社)日本水環境学会中国四国支部岡山地域分科会、岡山理科大学環境教育地域支援研究会と1月に共催した水環境フォーラムは、「瀬戸内海の順応的栄養塩管理～最近の取り組みと今後の課題～」をテーマに、行木美弥氏（環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室・室長）「瀬戸内海における水環境行政の最近の動き（栄養塩管理を中心に）」、江本和生氏（岡山市下水道河川局下水道施設管理課・課長補佐）「きれいで豊かな海を目指した下水処理場の取組みについて」、高木秀蔵氏（岡山県農林水産総合センター水産研究所・専門研究員）「岡東浄化センターにおける栄養塩管理運転の影響調査」、山本民次氏（流域圏環境再生センター・所長）「水産資源の回復と水質保全是相反関係か？～食物連鎖のダイナミクスから理解する～」の講演をオンラインで行い、水をきれいすることにのみに特化した取組みから“豊かな海”を目指した施肥を含む栄養塩管理について考える場となりました。

②「アマモ播種ポット作成教室」

- 1) 地域と世代をつなぐ里海づくりの一環として、毎年備前市立日生西小学校で実施している作成教室は、昨年同様、日生西小学校と日生中学校をオンラインで結び、田中丈裕氏（NPO法人里海づくり研究会議理事）によるアマモの役割説明の後、おかやまコープ岡山東エリアの組合員などの支援を受け、それぞれの教室（児童17名・生徒44名）でアマモ

の種で播種ポットを作成しました。児童はポットでの発芽と成長過程を観察し、2月1日に潜水作業により定植が行われました。

- 2) これまで神島見崎里浜づくりの会の支援で行われて来た笠岡市の神内小学校でのアマモ播種ポット作成教室は、10月29日におかやまコープ井笠エリアの組合員の支援などを受け、25名の児童を対象に行われました。発芽した苗は、1月22日早朝に児童と父兄も参加してカブトガニが生息する海岸に定植を行いました。

③行政等との関係

- 1) 備前市の里山ブランド推進協議会with I C M」の専門委員会及び環境戦略部会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から休会状態となっています。

組織名	委員会等	開催（下期開催時期は未定）
備前市	専門部会	10/31、11/2 WG
	観光戦略部会	開催なし(今年度開催予定なし)
旭川かいぼり	実行委員会	9/24、10/22

- 2) 岡山市との協働による「環境家計簿レポート」「環境家計簿カレンダー」を発行しました。引き続き、岡山市以外の市町との協働発行について実現の可能性を探ります。

④各団体との関係

- 1) 「市民のための環境講座」等では、大野川いい川づくり、特定非営利活動法人里海づくり研究会議、岡山野生生物調査会、認定NPO法人おかやまエネルギーの未来を考える会、公益財団法人水島地域環境再生財団、ままかり普及委員会、岡山淡水魚研究会等と共催による事業をすすめました。

(7) コープフェスタ

①ネットワークでのブース展示

- 1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、今年度のフェスタは中止となりました。

3. 公益事業2

(1) 市民のための環境講座

①企画状況

- 1) 環境問題を正しく理解し、意識啓発や行動を促すことを目的に、実施計画を立てましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くの企画は開催見送りとなりました。

日程	企画名称など
04/29 (木)	大野川「筍掘り&竹林の管理と鳥観察」
05/09 (日)	大野川「里山歩き&探鳥会」 ⇒中止
05/29 (土)	村田製作所ビオトープ「ホタル鑑賞会」 ⇒中止
06/05 (土)	西大寺一宮「山南ホタル観察会」 ⇒中止
06/06 (日)	灘崎町「なださき奥迫川ホタル観察会」 ⇒中止
06/12 (土)	大野川「ホタル調査会」 ⇒中止
06/00 (日)	北房「ホタル観察会(バス)」日生・赤磐発 ⇒中止
08/28 (土)	座学：吉鷹一郎氏「今おかやまの生き物たちはどうなっているの？ ～人と自然との関係を過去・現在・未来を考えよう～」
09/04 (土)	座学：廣本悦子氏「目指そう、再エネ100%の暮らし方」
09/11 (土)	座学：田中丈裕氏「30年後の世界の海は？」
09/25 (土)	座学：塩飽敏史氏「大量消費・大量廃棄社会のあり方を考える」
10/16 (土)	大野川「いきもの調査会」
11/07 (日)	御津竹枝「旭川かいぼり調査(かいぼり調査実行委員会)」
11/28 (日)	財団設立20周年記念シンポジウム

②概要

- 1) 財団設立20周年を記念して「岡山の自然と暮らしを取り巻く環境～これまでの20年とこれからの10年を展望して～」を開催しました。基調講演では、枝廣淳子氏（大学院大学至善館教授）による「2030年持続可能な社会に向けて私たちが取り組むべき行動」と題し、「フォアキャスト・バックキャスト」「パリ協定」「VUCAの時代」「システム思考」「コベネフィット」「パラダイム・シフト」「レジリエンス」「リ・ローカリゼーション」などの言葉の解説を交えながら、これからの方向性を提示していただきました。また、「2030年持続可能な社会に向けて私たちが取り組むべき行動」と題したパネルディスカッションでは、井勝久喜氏（吉備国際大学教授）と山田哲弘氏（環境学習センター「アスエコ」所長）をコーディネイターに、吉鷹一郎氏（岡山野生生物調査会・事務局）「岡山の生き物たちは今どうなっている？～旭川からの報告～」、田中丈裕氏（特定非営利活動法人里海づくり研究会議・理事/事務局長）「里海と里山と”まち”をつなぐ～里海からの発信～」、廣本悦子氏（認定NPO法人おかやまエネルギーの未来を考える会・会長）「2050年ゼロカーボンを実現するために、私たちにできること」、塩飽敏史氏（公益財団法人水島地域環境再生財団・理事/研究員）「海ごみ問題から考える、持続可能な社会のあり方とは」の報告で、岡山県内の現状と課題の提示に対し、枝廣氏から「繋がり（繋ぎ直す）」「循環（循環を取り戻す）」「3つのエア：ケア・フェア・シェア」などの解説をいただき、ネットワークづくりを目指す際のポイントを確認する場となりました。
- 2) 記念シンポジウムのプレ企画として、パネラー4名の方を講師に開催した座学では、パネルディスカッションの報告（10分/人）では時間の関係で触れていただけなかった、それぞれのテーマの現状や課題について幅広く情報提供をいただきました。

(2) 体験プログラム

①企画状況

- 1) 次代を担う子どもの参加する取り組みを大切に考え、自然にふれ親しみ、自然との共生、自然の大切さ、いのちのつながりなどを伝え、自然環境や普段の暮らしを考えるきっかけをつくることを目的に実施計画を立てましたが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くの企画は開催見送りとなりました。

日程	企画名称など（カッコ内はおかやまコープとの共催企画など）
04/10（土）	村田製作所「ビオトープ子ども企画①」
05/16（日）	瀬戸内市扇海岸「海ごみ回収体験」⇒延期
05/22（土）	「志々島大クス&燧灘天然干潟体験」（バス）⇒中止
06/06（日）	日生「アマモ種取り体験&アマモ場いきもの観察会」⇒中止
07/17（土）	大野川「トンボ観察」
08/11（水）	村田製作所「ビオトープ子ども企画②」⇒中止
08/21（土）	大野川「川あそび」⇒中止
09/19（日）	日生「アマモ種選別・種まき」⇒中止
09/19（日）	日生「アマモ種選別・種まき」（バス企画）⇒中止
09/20（月）	御津「タカの渡り観察」⇒中止
10/06（水）	備前市立日生西小学校「アマモ播種ポット作成教室」
10/26（火）	岡工学芸館高校「アマモ播種ポット作成教室」
10/29（金）	笠岡市立神内小学校「アマモ播種ポット作成教室」
10/31（日）	扇海岸「海ごみ回収体験」
11/13（土）	村田製作所「ビオトープ・子ども企画③」⇒中止
01/29（土）	村田製作所「ビオトープ・子ども企画④」⇒中止

②概要

- 1) 瀬戸内市邑久町の扇海岸で開催した海ごみ回収体験は、初めて海ごみ回収の体験する参加も多く、浜の表面だけでなくたくさんの海ごみが埋まっていること、カキ養殖に使用するグジが大量に漂着していることを実感しました。2021年春にスタートしている瀬戸

内オーシャンズXの取組や、J E A N、アーキペラゴ、mymizuアプリなどの情報提供を行い、プラスチックの使用を減らすことや適切に処分することの大切さを伝えました。

4. 事業共通

(1) 今後の公益事業取り組みへの情報収集

- ①次年度以降の環境講座等の企画に関する情報収集、県内で環境に関わる企画を主催している団体等との交流やネットワークづくりを図ること、2021年度以降の事業テーマへの継続的な情報収集を目的に、各種行事等への事務局参加・オンライン視聴をすすめました。

【森・里・川・海などの生態系保全への対応】

日程	企画名称など	会場など
04/03 (土)	蒜山山焼き	蒜山鳩ヶ原
04/17 (土)	ホタル観察 (ゲンジ幼虫)	灘崎奥迫川
04/18 (日)	保護センター「生きもの別ネイチャーガイド」	岡山県自然保護センター
04/24 (土)	赤磐市熊山公民館「わくわくアドベンチャー」	赤磐市石蓮寺みんなの森
04/25 (日)	企画「トンボの羽化を観察しよう」	岡山県自然保護センター
05/12 (水)	いきもの調査	由加蛭遊の里
05/28 (金)	ホタル観察 (ゲンジボタル)	灘崎奥迫川・由加蛭遊の里
06/01 (火)	ホタル観察 (ゲンジボタル)	村田製作所・竜の口
06/02 (水)	ホタル観察 (ゲンジボタル)	湯郷大谷川・美作市河会
06/03 (木)	中環審「水環境・土壌農業部会」	オンライン
05/28 (金)	ホタル観察 (ゲンジボタル)	由加蛭遊の里
06/05 (土)	ホタル観察 (ゲンジボタル・ヘイケボタル)	西大寺一宮公園
06/06 (日)	ホタル観察 (ゲンジボタル・ヘイケボタル)	灘崎奥迫川
06/07 (月)	ホタル観察 (ゲンジボタル)	福地
06/08 (火)	アマモ種取り	日生町漁協
06/09 (水)	中環審「水環境・土壌農業部会」	オンライン
06/10 (木)	ホタル観察 (ゲンジボタル)	玉島地区
06/12 (土)	アマモ種取り	邑久町漁協
06/13 (日)	ホタル観察 (ゲンジボタル・ヘイケボタル)	北房・大山川
06/27 (日)	ホタル観察 (ヒメボタル)	由加蛭遊の里
06/28 (月)	中環審「自然環境部会自然公園等小委員会及び自然公園等小委員会・温泉小委員会合同会議」	オンライン
07/06 (火)	環境省「外来生物対策のあり方検討会」	オンライン
07/14 (水)	ホタル観察 (ヒメボタル・オバボタル)	八塔寺
07/16 (金)	ホタル観察 (ヒメボタル・ヘイケボタル・ヒメボタル)	新庄村
07/20 (火)	びわ湖の日「連続講座①すぐ役に立たない古生物学者の琵琶湖の話」	オンライン
07/22 (木)	ホタル観察 (オバボタル・マドボタル)	津黒
07/25 (日)	「社会人大学生物学部『植物学科』② (波田善夫氏)」	岡山県自然保護センター
07/29 (木)	中環審「自然環境部会」	オンライン
08/05 (木)	ホタル観察 (ヘイケボタル幼虫)	灘崎奥迫川
08/06 (金)	びわ湖の日 「連続講座②プラスチックごみをめぐる状況とその削減に向けた取組」	オンライン
08/24 (火)	びわ湖の日「連続講座日③琵琶湖版SDGs『マザーレイクゴールズ』で分かる琵琶湖の課題と私たちにできること」	オンライン
08/26 (木)	ホタル観察 (ヘイケボタル幼虫)	灘崎奥迫川
08/27 (金)	中環審「自然環境部会」	オンライン
08/29 (日)	「社会人大学生物学部『植物学科』③ (波田善夫氏)」	岡山県自然保護センター
09/19 (日)	岡山野鳥の会 (例会)	貝殻山

09/26 (日)	「社会人大学生物学部『植物学科』④(波田善夫氏)	岡山県自然保護センター
09/27 (月)	中環審「地球環境部会気候変動影響評価等小委員会」	オンライン
09/30 (木)	中環審「自然環境部会自然公園等小委員会及び自然公園等小委員会・温泉小委員会合同会議」	オンライン
11/26 (金)	中環審「自然環境部会生物多様性国家戦略小委員会」	オンライン
12/04 (土)	ほくぼろホテル学	北房文化センター
12/08 (水)	環境省「民間取組等と連携した自然環境保全(OECM)の在り方に関する検討会」	オンライン
12/11 (土)	日本雑草学会「創立60周年記念シンポジウム」	RSKメディアセンター
12/17 (金)	中環審「自然環境部会生物多様性国家戦略小委員会」	オンライン
12/23 (木)	中環審・自然環境部会野生生物小委員会	オンライン
01/12 (水)	環境省「次期生物多様性国家戦略策定に向けた地方公共首長ワークショップ」	オンライン
01/16 (日)	落合野鳥の会定例会	真庭市美作落合駅周辺
01/19 (水)	中環審「自然環境部会生物多様性国家戦略小委員会」	オンライン
01/20 (木)	国交省「水辺からはじまる生態系ネットワーク全国フォーラム」	オンライン
01/26 (水)	中環審「地球環境部会」	オンライン
02/16 (水)	EPO北海道「環境保全はなぜ難しいか」	オンライン
03/14 (月)	2030生物多様性枠組実現日本会議ビジネスフォーラム	オンライン
03/22 (火)	2030生物多様性枠組実現日本会議地域連携フォーラム	オンライン
03/22 (火)	中環審「自然環境部会生物多様性国家戦略小委員会」	オンライン
03/23 (水)	NPOきよね夢てらす ビオトープホテル飼育情報交換	総社市清音

【エネルギー問題を踏まえた気候変動への対応】

日程	企画名称など	会場など
05/07 (金)	中環審「地球環境部会カーボンプライシングの活用に関する小委員会」	オンライン
05/19 (水)	経産省・国交省・環境省「脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会」	オンライン
05/19 (水)	CASA「連続②オーストリアの先進的な自治体の取り組み」	オンライン
05/30 (日)	エネみら「脱炭素による地域の魅力と暮らしの質の向上」	オンライン
05/31 (月)	エネルギー研究会「炭素ゼロ時代の地域分散型エネルギーシステム」	オンライン
06/09 (水)	エネルギー研究会「再生可能エネルギーのコストをどうみるか～エネルギー基本計画の焦点」	オンライン
06/12 (土)	CASA「2050年排出実質ゼロの実現へ①なぜ2050年排出実質ゼロをめざすのか?」	オンライン
06/21 (月)	環境省「次期生物多様性国家戦略研究会」	オンライン
06/23 (水)	中環審「総合政策部会環境影響評価制度小委員会」	オンライン
06/23 (水)	気候ネットワーク「エネルギー自立と持続可能な地域づくりー環境先進国オーストリアから学ぶ」	オンライン
06/26 (土)	CASA「2050年排出実質ゼロの実現へ②再エネはどこまで導入できるのか?」	オンライン
07/02 (金)	CASA「プラスチックごみを考える学習会第5回『事業者の取り組みは?』」	オンライン
07/03 (土)	CASA「2050年排出実質ゼロの実現へ③実現に向けての政府と地方自治体の役割」	オンライン
07/10 (土)	自然エネルギー市民の会「2050年CO2排出実質ゼロ、市民共同発電所は未来を切り拓けるか」	オンライン
07/15 (木)	環境省「令和3年度再生可能エネルギーの適正な導入に向けた環境影響評価のあり方に関する検討会」	オンライン
07/17 (土)	CASA「2050年排出実質ゼロの実現へ④2050年排出実質ゼロへのシナリオ」	オンライン

07/20 (火)	環境省「脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会」	オンライン
07/21 (水)	気候ネットワーク「オーストリアのエネルギー自立を支える哲学」	オンライン
08/03 (火)	環境省「CCUSの早期社会実装会議」	オンライン
08/10 (火)	経産省・国交省・環境省「脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会」	オンライン
08/17 (火)	気候ネットワーク「IPCC第6次評価報告書第1作業部会の報告を読み解く」	オンライン
09/07 (火)	環境省「地域脱炭素に向けた改正地球温暖化対策推進法の施行に関する検討会」・「地方公共団体実行計画策定・実施マニュアルに関する検討会」合同会合	オンライン
09/17 (金)	環境省「地域共生型の地熱利活用に向けた方策等検討会」	オンライン
09/17 (金)	FOE「バイオマス発電と生物多様性」	オンライン
09/18 (土)	自然エネルギー市民の会「2050年CO ₂ 排出実質ゼロ、市民共同発電所は未来を切り拓けるか」	オンライン
09/20 (月)	FOE「自然破壊の再エネはいらない」	オンライン
09/22 (水)	環境省「地域脱炭素に向けた改正地球温暖化対策推進法の施行に関する検討会」	オンライン
10/20 (水)	CAN-Japan「マルチステークホルダーフォーラム～気候危機、科学の警告を受け止め、何をすべきか～」	オンライン
10/25 (月)	環境省「地域脱炭素に向けた改正地球温暖化対策推進法の施行に関する検討会」	オンライン
11/04 (木)	国交省、経産省・環境省「地球環境部会住宅・建築物の脱炭素化に関する専門委員会」	オンライン
11/22 (月)	エネルギー研究会「第6次エネルギー基本計画」	オンライン
11/24 (水)	中環審「地球環境部会住宅・建築物の脱炭素化に関する専門委員会」	オンライン
11/24 (水)	環境市民「2050年に向けた脱炭素社会を創造するための変革、京都里山SDGsラボを切り口にして」	オンライン
11/25 (木)	環境省「世界のグリーン公共調達と環境ラベルの最新動向」①	オンライン
11/27 (土)	CASA「電力自由化と原子力発電」	オンライン
12/02 (木)	環境省「世界のグリーン公共調達と環境ラベルの最新動向」②	オンライン
12/04 (土)	CASA「COP26報告会～IPCC第6次評価報告書とCOP26～」	オンライン
12/07 (火)	CAN-Japan「COP26グラスゴー会議報告会」	オンライン
12/17 (金)	環境省「地域脱炭素に向けた改正地球温暖化対策推進法の施行に関する検討会」	オンライン
12/17 (金)	CASA・ちきゅうCafe	オンライン
12/23 (木)	環境省・IGES「パリ協定解説セミナー」	オンライン
01/17 (月)	CASA・ちきゅうCafe	オンライン
01/23 (日)	アスエコ「気候変動教育勉強会」	オンライン
01/27 (木)	環境省「第2回自家消費型太陽光発電設備の導入に関するセミナー」	オンライン
02/14 (月)	エネルギー研究会「COP26結果と評価」	オンライン
02/25 (金)	中環審「地球環境部会・総合政策部会炭素中立型経済社会変革小委員会」	オンライン
02/25 (金)	ウータン森と生活を考える会「STOP森林破壊バイオマス発電」	オンライン
03/02 (水)	中環審「地球環境部会・総合政策部会炭素中立型経済社会変革小委員会」	オンライン
03/24 (木)	中環審「地球環境部会地球温暖化対策計画フォローアップ専門委員会」	オンライン
03/25 (金)	環境省「民間企業のための気候変動適応ガイド活用セミナー」	オンライン
03/26 (土)	CASA「脱炭素社会は実現可能『CASA脱炭素モデル』試算結果」	オンライン
03/28 (月)	中環審「地球環境部会カーボンプライシング活用小委員会」	オンライン

【廃プラスチックをはじめ私達のくらしから発生するさまざまな廃棄物への対応】

日程	企画名称など	会場など
04/24 (土)	うみもりプロジェクト「扇海岸クリーンアップ」	瀬戸内市邑久町
07/04 (日)	オーシャンズXキックオフシンポジウム	高松市
07/15 (木)	プラスチックごみ調査	岡山市沿岸
08/02 (月)	中環審「循環型社会部会プラスチック資源循環小委員会、産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会プラスチック資源循環戦略ワーキンググループ合同会議」	オンライン
10/28 (木)	岡山県「食品ロス削減シンポジウム」	オンライン
11/08 (月)	中環審「廃棄物処理システムにおける脱炭素化に向けた普及促進方策に係るシンポジウム①」	オンライン
12/06 (月)	CASA「プラスチック汚染～世界と日本の今」	オンライン
12/19 (日)	岡山県「瀬戸内海・海ごみフォーラム in おかやま」	さん太ホール
01/11 (火)	環境市民「海洋プラスチックごみ削減と日本社会」	オンライン
01/20 (木)	環境省「廃棄物処理システムにおける脱炭素化に向けた普及促進方策に係るシンポジウム②」	オンライン
02/08 (火)	アスエコ「おかやま環境フォーラム」	オンライン
02/11 (金)	岡山県「プラごみ3R推進プラごみ問題」	オンライン
03/16 (水)	環境省「廃棄物処理システムにおける脱炭素化に向けた普及促進方策に係るシンポジウム③」	オンライン

【食糧危機への対応】

日程	企画名称など	会場など
12/14 (火)	環境省シンポジウム「生物多様性とライフスタイル ～自然の恵み「食」を将来に引き継ぐためにわたしたちができること～」	オンライン
03/03 (木)	環境市民「食べ物から世界経済の歴史を学ぶ」	オンライン

【その他】

日程	企画名称など	会場など
08/05 (木)	アスエコ「おかやま環境教育ミーティング」	オンライン
08/30 (月)	JEEF「環境リーダーシップ講座②持続可能な社会のために～企業が取り組むサステナビリティとは～」	オンライン
09/02 (木)	JEEF「環境リーダーシップ講座③現場に寄り添うということ～NGOが実施する環境保全～」	オンライン
09/09 (木)	JEEF「環境リーダーシップ講座④身近な環境を守りたい～住民が行った保全活動とその後～」	オンライン
09/16 (木)	JEEF「環境リーダーシップ講座⑤多様なキャリアパスについて～私がこの仕事を始めたきっかけ～」	オンライン
09/22 (水)	JEEF「持続可能な社会をめざす自然学校の学び①」	オンライン
09/30 (木)	JEEF「環境リーダーシップ講座⑥環境コミュニケーション～マルチステークホルダーをつなげる技術～」	オンライン
10/06 (水)	JEEF「持続可能な社会をめざす自然学校の学び②」	オンライン
10/07 (木)	JEEF「環境リーダーシップ講座⑦事業実施の際の注意点～よりよい成果を生むために～」	オンライン
10/20 (水)	JEEF「持続可能な社会をめざす自然学校の学び③」	オンライン
10/24 (日)	くらしき都市緑化フェア 2021	倉敷みらい公園
10/30 (土)	みずしま財団「流域で、人と自然の関わりを考えよう」	倉敷市・酒津公園周辺
11/20 (土)	ESD推進協議会「おかやまESDフォーラム 2021」	オンライン
12/06 (月)	環境省シンポジウム「グリーン×デジタルが先導する豊かな地域循環共生圏づくり」	オンライン
12/11 (土)	環境省「ESD推進ネットワーク全国フォーラム 2021:ESD for 2030のキックオフ～脱炭素社会づくりに向けたESD推進ネットワークの役割～」	オンライン

12/12 (日)	環境省「ローカルSDGs人材育成地方セミナー(岡山)」	藤クリーン
12/14 (火)	環境省「環境配慮契約法基本方針検討会」	オンライン
12/25 (土)	芝浦工業大学「SDGs実践報告会(学生)」	オンライン
01/21 (金)	真庭市「真庭SDGs円卓会議」	オンライン
01/29 (土)	環境省「ローカルSDGs人材育成地方セミナー(対馬)」	オンライン
02/06 (土)	環境省「ローカルSDGs人材育成地方セミナー(徳島)」	オンライン
02/23 (水)	環境省「ローカルSDGs人材育成地方セミナー(全体会)」	オンライン
02/26 (土)	ESD-J「学校教育におけるESD/SDGs」	オンライン
03/05 (土)	えぞCONE・日本環境教育学会北海道支部合同フォーラム	オンライン
03/06 (日)	えぞCONE・日本環境教育学会北海道支部合同フォーラム	オンライン
03/10 (木)	環境省「ローカルSDGsシンポジウム」	オンライン
03/18 (金)	環境省「教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修プログラム・デザインコース～地球資源を大切に環境教育～」	藤クリーン
03/30 (水)	国連大学SDGs大学連携プラットフォーム公開シンポジウム	オンライン

②会員登録いただいている個人会員及び団体会員のみならず、企業会員のみならずにも財団としてどんな情報提供が求められているのか、どんな情報提供が可能なのかを研究し、みなさまから必要とされる財団となれるよう引き続き情報収集をすすめます。

5. 法人管理部門

(1) 理事会、評議委員会

- ①5月理事会、6月定例評議委員会は、持ち回りによる開催としました。
- ②理事協議会を、7月、9月、11月、12月に開催し、2030年に向けた「長期ビジョン・骨子」をまとめるとともに活動テーマなどを協議しました。

(2) 申請

- ①年度計画等の変更届を提出しました。
- ②2021年度の公益財団法人事業報告を提出しました。

(3) 会員管理

①会員数(2022年03月31日現在：納付済)

会員数	個人	団体	企業等	計
2022年3月	81+3	39+4	30	150+7
2021年3月	86+3	33+3	30	153+6

②2021年度入会・退会状況

	個人	団体	企業等	計
入会	8	1+1	0	9+1
退会	4	0	0	4

(4) 財政

- ①収支は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、計画通りの事業展開が出来なかったこと等により、働き掛けが十分に進まず会員会費が減少しました。
- ②財団設立20周年記念事業に向け積み立てた準備資金を全て取崩したものを含め、収支相償を目指しました。

(5) その他

- ①3月17日に、岡山県による「公益法人立入検査」(3年に一度)がありました。口頭意見2件がありました。対応について新年度に検討を進めます。

以上

公益財団法人おかやま環境ネットワーク役員・評議員

2021年度(令和03年度)

評議員 [任期] 2021(令和03)年評議員会終結の時～2025(令和07)年評議員会終結の時

	氏名	略歴等
1	阿部 孝司	岡山大学生生活協同組合専務理事
2	伊東 秀之	岡山県立大学副学長
3	大倉 和幸	児島湖流域エコウェブ事務局長
4	大塚 利昭	日本野鳥の会岡山支部副支部長
5	小橋 賢之	(株) 建美装社代表取締役
6	田中 照周	生活協同組合おかやまコープ専務理事
7	萩原 美江	生活協同組合おかやまコープ全体理事
8	日野 進一郎	グローカルネット吉備代表 / 日野環境デザイン研究所代表
9	平田 まき子	前加計学園水質管理室
10	福田 佳代	岡山環境カウンセラー協会副代表
11	和田 博知	岡山医療生活協同組合専務理事

以上、評議員 11名 (50音順)

理事 [任期] 2020(令和2)年評議員会終結の時～2022(令和4)年評議員会終結の時

	氏名	略歴等
1	秋山 秀行	(株) 大町代表取締役社長
2	井勝 久喜	吉備国際大学教授
3	沖 陽子	岡山県立大学学長
4	高坂 知典	生活協同組合おかやまコープ職員
5	斉藤 達昭	岡山理科大学理学部准教授
6	嶋 一徹	岡山大学大学院環境生命科学研究所教授
7	清水 善朗	弁護士
8	上甲 啓一	生活協同組合おかやまコープ執行役員
9	田中 丈裕	特定非営利活動法人里海づくり研究会議理事・事務局長
10	野上 祐作	岡山理科大学名誉教授
11	花口 光	岡山の自然を守る会事務局長・会長
12	三村 康	サンコー印刷(株) 代表取締役
13	山口 一裕	岡山理科大学教育開発センター次長
14	山田 哲弘	公益財団法人岡山県環境保全事業団環境学習センター「アスエコ」所長
15	吉鷹 一郎	岡山野生生物調査会事務局

以上、理事 15名 (50音順)

代表理事：野上 祐作、業務執行理事：上甲 啓一、高坂 知典

監事 [任期] 2020(令和2)年評議員会終結の時～2022(令和4)年評議員会終結の時

	氏名	略歴等
1	岡本 秀雄	生活協同組合おかやまコープ常勤監事
2	横山 順二	岡山手延素麺株式会社代表取締役

以上、監事 2名 (50音順)

顧問 [任期：理事会において定める]

2018(平成30)年5月12日理事会終結の時～2024(令和6)年5月理事会終結の時

	氏名	略歴等
1	青山 勳	岡山大学名誉教授
2	河原 長美	岡山大学名誉教授
2	千葉 喬三	学校法人中国学園大学・中国短期大学学長

以上、顧問 3名 (50音順)

事業報告書の附属明細書

1. 評議員及び理事、監事の報酬等の状況

区分	定款上の定員(名)	人員数(名)	支給額
評議員	3名以上15名以内	11名	無
理事	3名以上17名以内	15名	無
監事	2名以内	2名	無
合計		28名	—

2. その他の事業報告書の内容を補足する重要な事項 該当事項はありません。

3. 2021年度評議員会・理事会・監事監査一覧

開催日	会議名	開催日	会議名	開催日	会議名
04/08(木)	監事監査	持ち回り	評議員会	10/23(土)	理事会
05/15(土)	理事会	10/15(金)	監事監査	02/19(土)	理事会

4. 2021年度主催実施事業一覧 多くのご参加、ご支援、ありがとうございました。

開催日	事業名	参加数	開催日	事業名	参加数
04/10(土)	体験P・村田親子企画①	26	10/06(水)	体験P・日生西小学校アマモ	71
04/17(土)	ホテル団体交流会	7	10/09(土)	ホテル団体交流会	8
04/29(木)	環境講座・大野川筍掘り等	41	10/16(土)	環境講座・大野川いきもの調査	19
05/15(土)	助成活動報告会(オンライン)	12	10/26(火)	体験P・岡山学芸館高校アマモ	26
06/29(火)	事業・決算報告書発行	700部	10/29(金)	体験P・笠岡神内小学校アマモ	48
06/30(水)	環境家計簿レポート発行	1,000部	10/31(日)	体験P・扇海岸海ごみ清掃体験	60
07/17(土)	体験P・大野川トンボ観察	19	11/07(日)	環境講座・旭川かいぼり調査	250
07/21(水)	水環境フォーラム(オンライン)	80	11/25(木)	環境カレンダー発行	1,300部
08/28(土)	環境講座・吉鷹氏(オンライン)	13	11/28(日)	設立20周年記念シンポジウム	130
09/04(土)	環境講座・廣本氏(オンライン)	17	01/15(土)	ホテル団体交流会	8
09/11(土)	環境講座・田中氏(オンライン)	16	01/17(月)	水環境フォーラム(オンライン)	80
09/25(土)	環境講座・塩飽氏(オンライン)	14	03/25(金)	設立20周年記念誌発行	700部

※メール・ニュース等は、他団体企画掲載要請を含め、随時配信を行いました。

5. 2021年度主催会議等一覧

開催日	会議名	開催日	会議名
04/06(火)	体験プログラム打ち合わせ	10/26(火)	記念シンポジウム打ち合わせ
04/12(月)	環境講座打ち合わせ	10/28(木)	体験プログラム打ち合わせ
04/13(火)	理事会打ち合わせ	11/03(水)	記念シンポジウム打ち合わせ
04/19(月)	自然環境部会(仮称) 打合せ	11/06(土)	自然環境部会(仮称) 準備会
04/22(木)	理事会プロジェクト会議	11/09(火)	記念シンポジウム打ち合わせ
04/27(火)	自然環境部会(仮称) 打ち合わせ	11/12(金)	記念シンポジウム打ち合わせ
04/28(水)	環境講座打ち合わせ	11/19(金)	記念シンポジウム打ち合わせ
04/30(金)	笠岡里海シンポジウム DVD 作成	11/19(金)	里海づくり推進部会
05/06(木)	記念シンポジウム打ち合わせ	11/20(土)	理事協議会
05/08(土)	記念シンポジウム打ち合わせ	11/24(水)	記念シンポジウム打ち合わせ
05/11(火)	理事会打ち合わせ	11/26(金)	記念シンポジウム打ち合わせ
05/18(火)	理事協議会打ち合わせ	11/29(月)	自然環境部会(仮称) 打ち合わせ
06/16(水)	理事協議会打ち合わせ	12/07(火)	環境講座打ち合わせ
06/20(日)	自然環境部会(仮称) 打ち合わせ	12/08(水)	理事協議会打ち合わせ
06/22(火)	理事会打ち合わせ	12/14(火)	理事協議会打ち合わせ
06/24(木)	環境家計簿委員会	12/15(水)	理事協議会
06/30(水)	自然環境部会(仮称) 打ち合わせ	12/16(木)	笠岡里海シンポジウム打ち合わせ
07/03(土)	理事協議会	12/18(土)	自然環境部会(仮称) 準備会
07/12(月)	理事協議会打ち合わせ	12/22(水)	笠岡里海シンポジウム打ち合わせ
07/19(月)	里海づくり推進部会	12/22(水)	自然環境部会(仮称) 打ち合わせ
07/26(月)	体験プログラム打ち合わせ	12/24(金)	笠岡里海シンポジウム打ち合わせ
08/02(月)	体験プログラム打ち合わせ	12/26(日)	体験プログラム打ち合わせ
08/17(火)	理事協議会打ち合わせ	12/27(月)	記念誌作成打ち合わせ
08/23(月)	理事会打ち合わせ	01/06(木)	自然環境部会(仮称) 打ち合わせ
08/24(火)	環境講座打ち合わせ	01/08(土)	自然環境部会(仮称) 準備会
08/27(金)	理事協議会打ち合わせ	01/21(金)	運営委員会打ち合わせ
08/28(土)	体験プログラム打ち合わせ	01/22(土)	体験プログラム打ち合わせ
09/01(水)	環境講座打ち合わせ	01/25(火)	運営委員会
09/04(土)	理事協議会	01/31(月)	体験プログラム打ち合わせ
09/15(水)	体験プログラム打ち合わせ	02/01(火)	自然環境部会(仮称) 打ち合わせ
09/21(火)	環境家計簿委員会	02/05(土)	自然環境部会(仮称) 準備会
10/01(金)	理事会打ち合わせ	02/10(木)	助成部会
10/02(土)	自然環境部会(仮称) 打ち合わせ	02/22(火)	里海づくり推進部会
10/05(火)	環境家計簿委員会	02/26(土)	自然環境部会(仮称) 準備会
10/09(土)	自然環境部会(仮称) 準備会	02/28(月)	笠岡里海シンポジウム打ち合わせ
10/12(火)	環境カレンダー作成打ち合わせ	03/08(火)	笠岡里海シンポジウム打ち合わせ
10/15(金)	理事会打ち合わせ	03/20(日)	笠岡里海シンポジウム DVD 作成

6. 年度別事業実施数と事業参加人数推移

年度	事業数	参加人数	年度	事業数	参加人数	年度	事業数	参加人数
2001年度	10	501	2008年度	10	667	2015年度	21	3,746
2002年度	10	668	2009年度	13	1,058	2016年度	24	4,305
2003年度	11	751	2010年度	14	1,440	2017年度	22	3,462
2004年度	11	537	2011年度	16	2,057	2018年度	21	3,692
2005年度	11	655	2012年度	18	2,579	2019年度	21	1,900
2006年度	10	725	2013年度	21	3,101	2020年度	21	872
2007年度	10	609	2014年度	23	3,699	2021年度	23	945

※2019年度集計より、メールアドレス登録者数、発行物発行数を集計から除いています。

I. 財務諸表

貸借対照表

2022年03月31日現在

(単位:円)

科 目	当 期 金 額	前年同月金額	当期増減額
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	2,197,045	2,600,851	△ 403,806
未収金	0	0	0
前払金	0	0	0
仮払金	0	0	0
流動資産合計	2,197,045	2,600,851	△ 403,806
2. 固定資産			
基本財産			
投資有価証券	100,000,000	100,000,000	0
定期預金	15,000,000	15,000,000	0
基本財産合計	115,000,000	115,000,000	0
特定資産			
20周年記念事業準備資金	0	2,800,000	△ 2,800,000
特定資産合計	0	2,800,000	△ 2,800,000
その他の固定資産			
器具備品	0	0	0
減価償却累計額	0	0	0
その他の固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	115,000,000	117,800,000	△ 2,800,000
資産合計	117,197,045	120,400,851	△ 3,203,806
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	74,435	155,163	△ 80,728
前受会費	116,000	12,000	104,000
預り金	0	0	0
流動負債合計	190,435	167,163	23,272
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	190,435	167,163	23,272
III. 正味財産の部			
正味財産			
基本財産	115,000,000	115,000,000	0
特定資産	0	2,800,000	△ 2,800,000
当期正味財産増減額	△ 3,227,078	△ 5,991	△ 3,221,087
繰越金	5,233,688	2,439,679	2,794,009
正味財産合計	117,006,610	120,233,688	△ 3,227,078
正味財産合計	117,006,610	120,233,688	△ 3,227,078
負債および正味財産合計	117,197,045	120,400,851	△ 3,203,806

正味財産増減計算書

2021年04月01日から2022年03月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	当年度予算	前年度実績	実績増減
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
①基本財産運用益	1,800,300	1,800,000	1,801,500	-1,200
②特定資産運用益	0	0	0	0
③受取会費	894,000	2,372,000	2,376,000	-1,482,000
④事業収益	0	0	0	0
⑤受取補助金等	0	0	0	0
⑥受取寄附金	6,000	0	1,000	5,000
⑦雑収益	0	0	500	-500
⑧受取利息	34	0	44	-10
⑨20周年記念事業準備資金取崩	2,800,000	2,800,000	0	2,800,000
経常収益計	5,500,334	6,972,000	4,179,044	1,321,290
(2) 経常費用				
①事業費	5,794,093	7,297,797	3,487,433	2,306,660
給料手当	0	0	0	0
臨時雇賃金	199,704	240,000	191,665	8,039
旅費交通費	240,050	892,500	391,930	-151,880
通信交通費	287,576	231,430	100,988	186,588
通信運搬費	1,050	0	0	1,050
減価償却費	0	0	0	0
消耗品費	133,224	163,200	529,862	-396,638
印刷製本費	1,954,692	1,890,500	708,569	1,246,123
賃借料	315,970	504,920	381,820	-65,850
諸謝金	1,011,322	1,550,000	246,822	764,500
支払助成金	824,505	1,071,752	574,809	249,696
雑費	826,000	728,495	360,968	465,032
研修費	0	25,000	0	0
②管理費	133,319	140,055	97,602	35,717
給料手当	0	0	0	0
臨時雇賃金	0	0	0	0
会議費	0	0	0	0
旅費交通費	40,780	63,900	14,470	26,310
通信交通費	36,079	27,170	40,394	-4,315
通信運搬費	0	0	0	0
減価償却費	0	0	0	0
消耗品費	4,260	3,400	12,795	-8,535
印刷製本費	2,660	1,500	1,604	1,056
賃借料	39,780	28,680	20,930	18,850
諸謝金	0	0	0	0
雑費	9,760	3,405	7,409	2,351
研修費	0	12,000	0	0
公租公課	0	0	0	0
経常費用計	5,927,412	7,437,852	3,585,035	2,342,377
当期経常増減額	-427,078	-465,852	594,009	-1,021,087
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
基本財産評価益	0	0	0	0
固定資産売却益	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
基本財産評価損	0	0	84,621	-84,621
固定資産売却損	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	84,621	-84,621
当期経常外増減額	0	0	-84,621	84,621
当期一般正味財産増減額	-3,227,078	-3,265,852	594,009	-3,821,087
一般正味財産期首残高	120,233,688	120,233,688	119,639,679	594,009
一般正味財産期末残高	117,006,610	116,967,836	120,233,688	-3,227,078
II. 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減の部				
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III. 正味財産期末残高	117,006,610	119,767,836	120,233,688	-3,227,078

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法
償却原価法によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券 第122回利付国債	100,000,000	0	0	100,000,000
定期預金	15,000,000	0	0	15,000,000
小 計	115,000,000	0	0	115,000,000
特定資産				
20周年記念事業準備資金	2,800,000	0	2,800,000	0
小 計	2,800,000	0	2,800,000	0
合 計	117,800,000	0	2,800,000	115,000,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
投資有価証券 第122回利付国債	100,000,000		100,000,000	
定期預金	15,000,000		15,000,000	
小 計	115,000,000	0	115,000,000	0
特定資産				
20周年記念事業準備資金	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0
合 計	115,000,000	0	115,000,000	0

Ⅱ. 附 属 明 細 書

- (1) 基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表の注記のとおりである。
 (2) 引当金は該当なし。

Ⅲ. 財 産 目 録

2022年03月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金	手元保管	運転資金として	112,113
	普通預金	中国銀行奉還町支店	運転資金として	1,261,165
	郵便振替	ゆうちょ銀行(伊福町)	運転資金として	823,767
	前払金			0
	仮払金			0
流動資産合計				2,197,045
(固定資産)				
基本財産				
	投資有価証券	第122回利付国債	公益目的保有財産として保有	100,000,000
	定期預金	中国銀行奉還町支店	公益目的保有財産として保有	15,000,000
特定資産	20周年記念	中国銀行奉還町支店	特定費用準備資金(公益目的)	0
	事業準備資金		として管理	0
その他の固定資産				0
固定資産合計				115,000,000
資産合計				117,197,045
(流動負債)				
	未払金			74,435
	前受会費	個人会費 29件 30口	公益目的事業及び管理目的の業務 に使用する翌年度の会費	116,000
		団体会費 08件 08口		
		法人会費 02件 02口		
	預り金	寄付金 00件 00口		0
流動負債合計				190,435
(固定負債)				
固定負債合計				0
負債合計				190,435
正味財産				117,006,610

監査報告書

私たち監事は、2021年4月1日から2022年3月31日までの2021年3月期事業年度の理事の職務の執行を監査しました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、他の監事と意思疎通及び情報の交換を図るほか、監査方針等に従い、理事と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会や報告会等に出席し、理事からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、重要な書類等を閲覧し、本部事務所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告書及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査の結果

(1) 事業報告書等の監査結果

- 一 事業報告書及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表等の監査結果

財務諸表及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2022年04月13日

公益財団法人 おかやま環境ネットワーク

監事 岡本秀雄 

監事 横山慎二 

2022年度の事業計画

◆はじめに 『参加と行動 ～あらゆる主体の参加・行動を促します～』

- ・かけがえのない地球を守り、私たちの生命を育てている健全で恵み豊かな環境を保全しながら将来に引き継ぐためには、社会を構成するあらゆる主体の参加と行動が必要です。
- ・「おかやま環境ネットワーク」は、2030年に向け、産学官民連携の下、ネットワークを拡げながら、未来社会に活かす環境マインドの醸成と豊かな岡山の自然環境とくらしを維持する地域力を創り、子どもの笑顔に結びつけられるよう次世代に継承することをミッションとします。

1. ネットワーク・広報・研究・助成事業

①助成事業

- ・県内の環境団体の育成と環境問題の研究に対して財政的な支援を図ります。
- ・「助成活動報告会」は、前年度助成団体による活動報告と、意見交流を行います。

②ホテル団体交流会・ホテル現地視察会

- ・ホテル団体交流会は、ホテルに関する取り組みを実施している団体や関心ある個人の参加のもと交流をすすめ、自然環境保全活動の前進を図ります。
- ・ホテル団体交流会は、次世代の育成や子どもたちにホテルの住む環境を残すことの大切さを伝えていく方策の検討及び具体化を図ります。
- ・ホテル生息地や保全活動実施地域を訪れ、ホテルの生態と自然環境の観察をしながら、地域の皆様、参加者が意見交換し、より望ましい保全のあり方等について考えることを目的に現地視察を行います。

③ニュース、ホームページ、メールニュースの発行

- ・各媒体の特徴を活かし、多様な情報発信、情報共有、各主体の交流の促進と、事業への参加や協力を促します。
- ・ニュースは季刊発行とし、様々な情報提供、活動紹介をすすめます。
- ・メールニュースは月2回を基本に発行し、タイムリーな情報発信をすすめます。
- ・「事業紹介パンフレット」や「事業・決算報告並びに事業計画・予算書」を作成し、広く活動の理解につなげ、それらを活用した会員獲得をすすめます。

④環境家計簿活動の普及

- ・環境家計簿の普及を通じ、家庭部門のCO₂排出削減をすすめ、環境に配慮したくらしを見直す活動をすすめます。
- ・岡山市と協働で「環境家計簿レポート・

環境家計簿カレンダー」を発行し、啓発につなげます。

⑤自然環境の研究・交流

- ・「里海づくり推進部会」で、県内の活動の推進、学習・交流企画等の具体化を図ります。
- ・「おかやまの豊かな自然とくらしを考える部会」を設置し、県内の自然環境に関わる団体・個人との交流や研究調査等の具体化を図ります。
- ・気候変動やプラスチック類による環境影響など暮らしとのかかわりで行動変容が求められている課題について継続して学習や交流企画等の具体化を図ります。

⑥他団体、行政等とのつながり

- ・他団体や行政等との日常的なコミュニケーションを強め、共催事業の具体化や、委員会などの場で役割を発揮します。
- ・水環境フォーラムを（公社）日本水環境学会中国・四国支部岡山地域分科会、岡山理科大学環境教育地域支援研究会と共催で開催します。

2. 啓発事業

他団体や行政等との連携と協働をすすめます。

①市民のための環境講座

- ・環境問題を正しく理解し、意識啓発や行動を促し、社会全体の持続可能性を形づくる基本概念を学ぶことを目的に開催します。
- ・豊かな環境を次世代に継承できるよう、幅広い課題について、情報を発信します。
- ・清流のある御津大野での各種取り組み等の企画をすすめます。

②体験プログラム

- ・体験を通して得られる実感や理解をもとに、人間と環境との関わりや、豊かな環境とその恵みを大切に思う心をはぐくみ、命の大切さを学び、環境や普段のくらしを自ら考えるきっかけをつくることを目的に機会提供をすすめます。
- ・「旭川かいぼり調査 2022」を地元団体等と共催で開催します。
- ・日生でのアマモ場再生関連企画を継続します。

3. 法人管理・会計等

①公益財団法人の組織運営

- ・新制度に沿った組織運営をすすめます。
- ・理事・監事の任期満了に伴い改選します。

②予算

- ・収支相償を目指します。

収 支 予 算 書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合計
	公 1	公 2	共通	小計		
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
基本財産運用益			1,800,000	1,800,000	0	1,800,000
特定資産運用益				0	0	0
受取会費			1,686,600	1,686,600	187,400	1,874,000
事業収益				0	0	0
受取補助金等				0	0	0
受取寄附金				0	0	0
特定費用準備資金取崩				0	0	0
雑収益				0	0	0
経常収益計	0	0	3,486,600	3,486,600	187,400	3,674,000
(2) 経常費用						
事業費	2,362,700	1,178,500	473,674	4,014,874		4,014,874
給料手当	0	0	0	0		0
臨時雇賃金	0	77,500	0	77,500		77,500
旅費交通費	378,000	34,000	1,500	413,500		413,500
通信交通費	128,000	32,000	61,134	221,134		221,134
通信運搬費	0	0	0	0		0
減価償却費	0	0	0	0		0
消耗品費	44,000	104,000	63,950	211,950		211,950
印刷製本費	359,000	92,000	54,500	505,500		505,500
賃借料	149,200	22,000	230,720	401,920		401,920
諸謝金	120,000	472,000	0	592,000		592,000
支払助成金	1,100,000	0	0	1,100,000		1,100,000
雑費	84,500	345,000	51,870	481,370		481,370
研修費	0	0	10,000	10,000		10,000
管理費					116,846	116,846
給料手当					0	0
臨時雇賃金					0	0
会議費					0	0
旅費交通費					42,400	42,400
通信交通費					27,086	27,086
通信運搬費					0	0
減価償却費					0	0
消耗品費					3,650	3,650
印刷製本費					1,500	1,500
賃借料					27,480	27,480
諸謝金					0	0
雑費					9,730	9,730
研修費					5,000	5,000
公租公課					0	0
経常費用計	2,362,700	1,178,500	473,674	4,014,874	116,846	4,131,720
当期経常増減額	-2,362,700	-1,178,500	3,012,926	-528,274	70,554	-457,720

公益財団法人おかやま環境ネットワーク

2030年に向けた組織行動方針

2021年10月末から11月中旬にかけて、英国のグラスゴーで開催されたCOP26において、2030年までの10年を“決定的な10年間”と位置づけ、気候変動の悪影響を回避する上で、気温の上昇幅を1.5℃に抑えることを目標とする合意がなされました。この目標の達成に向けて各国がどのような対策を掲げ、そのための行動をどれだけ加速できるかがカギとなっています。

このような状況の中で、創立20年を迎えた「おかやま環境ネットワーク」の今後の活動を展望する契機として、2021年の11月、20周年記念シンポジウムを開催致しました。枝廣淳子さんの基調講演及びパネルディスカッションを通して、我々の身近な暮らしが地域経済や地球環境にどのように関係しているのかについて議論致しました。

そして、おかやま環境ネットワークを支える理事で協議を重ね、下記のような今後10年間の長期ビジョンの骨子を作成致しました。

(公財) おかやま環境ネットワークは、産官学民の連携の下、2030年に向けてネットワークを充実させながら未来社会に活かす環境マインドと、岡山の自然環境と暮らしを維持する地域力を養い、次世代を担う笑顔に満ちた子どもたちにそれらを継承していくことをミッションとします。

具体的な活動としては、①森・里・川・海などの生態系保全への対応、②エネルギー問題を踏まえた気候変動への対応、③廃プラスチックをはじめ私達の暮らしから発生するさまざまな廃棄物への対応、④今後やってくることで予測される食糧危機への対応などを対象とすることに致しました。

これらは互いに関連する問題であり、目標とする未来社会を起点として、これらに対して私達が今何をなすべきかを考える必要があります。

おかやま環境ネットワークがこれらを実践するためには、岡山県内の環境保全活動団体や個々の県民の皆さんとの情報の交換・共有を行い、時には調査・研究の協働が必要と考えます。さらに、異なる世代間の交流を積極的に図りながら豊かなネットワークを構築していく所存です。ご支援のほどよろしくお願い致します。

以上

2022年04月01日

公益財団法人おかやま環境ネットワーク理事会

おかやまの豊かな自然とくらしを考える部会

1. はじめに

- ・公益財団法人おかやま環境ネットワークは、2022年度「おかやまの豊かな自然とくらしを考える部会」を新設します。

2. 活動コンセプト

おかやまの人々のくらしの中に息づいてきた豊かな歴史・自然の情報を再発見し、これを記録していくことは、開発や地球温暖化により自然生態系が大きく変わりつつある中で、いま喫緊の課題となっています。

私たちは、地域の自然を守り、風土や文化を引きつぐ大切さを学び、行動することを目的にこの部会を立ち上げました。

これらの実現のために、市民、地域の有識者および専門家等との協働の輪づくりをすすめます。

3. 活動の具体化

- (1) 各地に残されている豊かな自然や失われつつある風土や歴史・文化を、多様な人々の参加により継続的に調査します。
- (2) 私たちのくらしに起因する様々な環境問題および昨今の気候変動が豊かな自然に与える影響を把握するとともに、それらの環境課題を踏まえた統合的な解決策の検討を進めます。
- (3) 調査したことや学んだことを多くの市民に体感してもらい、将来にどんな形で残していくのかを共に考える機会を創出します。
- (4) 将来を担う子ども達や若い世代に何を伝えることが必要かを考え、学習企画等の具体化を図ります。
- (5) 県内各地で活動している団体・個人との間で交流と情報共有を図り、共に学び行動するネットワークの構築を通じて、新たな賛同者の獲得を図ります。
- (6) 収集した情報は、検索が容易に可能な、将来に向けた情報（データベース）として残すことを当面の目標とします。
- (7) 主体的な活動を積み上げながら、行政と連携した活動を図ります。

4. 現状分析

- 1) 岡山の自然は、非常に厳しい状況です。2019年岡山県RBは、10年前より大幅に増えています。
- 2) 里山が消えていっています。ふるさと（景観＋生態系＋文化伝統がセット）が消えています。
- 3) 環境保全に取り組んでいるのは、団体よりも個人の場合が多く連携が不足しています。
- 4) 子どももその親も自然に触れる機会そのものが減っています。
- 5) 将来に向け、子ども達に自然との付き合い方を伝えていくことが求められています。
- 6) 環境について、現状を把握し情報交流・意見交換するためのネットワークがありません。
- 7) 環境行政は後退し、待っていても状況が好転する可能性は低くなってきています。
- 8) 行政を巻き込んだ活動で、県民の信頼度を高めることが必要となってきています。
- 9) 子どもの教育にも実物・標本を見学できる場所が不足しています。
- 10) 研究者や個人が収集した過去の調査データや希少な標本類を伝えていく場が殆どありません。

5. 参加呼び掛け予定の団体・個人など

※団体・個人を問わず、どなたでも参加・登録できます。

6. その他

※部会の様子（概略）は、メールニュースやFacebook等で公開し、新たな賛同者と参加者を募ります。

公益財団法人おかやま環境ネットワーク定款

第1章 総 則

(名称)

第1条 この法人は、公益財団法人おかやま環境ネットワークと称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を岡山県岡山市に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、ふるさと岡山の自然とくらしに関する環境保全及び環境問題の解決に向け、研究・啓発活動をはじめ、県内の環境活動団体の交流や相互支援の促進を図り、もって地球環境保全に寄与することを目的とする。

(公益目的事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) ネットワーク事業(①環境保全活動の交流に関する事業、②環境情報の提供に関する事業、③地域環境、地球環境、くらしの調査、研究に関する事業、④地域の環境活動団体に対する支援事業)
 - (2) 啓発事業(地域環境、地球環境を大切にす啓発に関する事業)
 - (3) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は、岡山県内において行うものとする。

第3章 資産及び会計

(基本財産)

第5条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な財産として、評議員会で定めた財産をこの法人の基本財産とする。

2 基本財産は、評議員会において別に定めるところにより、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を要する。

(事業年度)

第6条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第7条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、代表理事が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第8条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、代表理事が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書(正味財産増減計算書)
- (5) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号、第5号、及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(公益目的取得財産残額の算定)

第9条 代表理事は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第3項第4号の書類に記載するものとする。

第4章 評議員

(評議員)

第10条 この法人に評議員3名以上15名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第11条 評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第179条から第195条の規定に従い、評議員会において行う。

2 評議員を選任する場合には、次の各号の要件をいずれも満たさなければならない。

- (1) 各評議員について、次のイからへに該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること。

- イ 当該評議員及びその配偶者又は3親等内の親族
- ロ 当該評議員と婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者
- ハ 当該評議員の使用人
- ニ ロ又はハに掲げる者以外の者であつて、当該評議員から受ける金銭その他の財産によって生計を維持しているもの
- ホ ハ又はニに掲げる者の配偶者
- ヘ ロからニまでに掲げる者の3親等内の親族であつて、これらの者と生計を一にするもの
- (2) 他の同一の団体(公益法人を除く。)の次のイからニに該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること。

- イ 理事
- ロ 使用人
- ハ 当該他の同一の団体の理事以外の役員(法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、その代表者又は管理人)又は業務を執行する社員である者
- ニ 次に掲げる団体においてその職員(国会議員及び地方公共団体の議会の議員を除く。)である者
 - ① 国の機関
 - ② 地方公共団体
 - ③ 独立行政法人通則法第2条第1項に規定する独立行政法人
 - ④ 国立大学法人法第2条第1項に規定する国立大学法人又は同条第3項に規定する大学共同利用機関法人
 - ⑤ 地方独立行政法人法第2条第1項に規定する地方独立行政法人
 - ⑥ 特殊法人(特別の法律により特別の設立行為をもって設立された法人であつて、総務省設置法第4条第15号の規定の適用を受けるものをいう。)又は認可法人(特別の法律により設立され、かつ、その設立に関し行政官庁の認可を要する法人をいう。)

(評議員の任期)

- 第12条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。
- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
- 3 評議員は、第10条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員に対する報酬等)

- 第13条 評議員は、無報酬とする。

(構成)

- 第14条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

(権限)

- 第15条 評議員会は、次の事項について決議する。
 - (1) 理事及び監事の選任及び解任
 - (2) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)並びにこれらの附属明細書の承認
 - (3) 定款の変更
 - (4) 残余財産の処分
 - (5) 基本財産の処分又は除外の承認
 - (6) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

- 第16条 評議員会は、定時評議員会として毎年度終了後3箇月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

- 第17条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき代表理事が招集する。
- 2 評議員は、代表理事に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

- 第18条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。
 - (1) 監事の解任
 - (2) 定款の変更
 - (3) 基本財産の処分又は除外の承認
 - (4) その他法令で定められた事項

- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第20条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議事録)

- 第19条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 評議員会において選定された議事録署名人は、前項の議事録に記名押印する。

第6章 役員

(役員の設定)

第20条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3名以上17名以内
- (2) 監事 2名以内

2 理事のうち1名を代表理事とし、代表理事以外の理事のうち1名以上2名以内を業務執行理事とする。

(役員を選任)

第21条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 代表理事及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第22条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 代表理事は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3 代表理事及び業務執行理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第23条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第24条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

4 理事又は監事は、第20条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第25条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第26条 理事及び監事は、無報酬とする。

(顧問)

第27条 この法人には任意機関として、顧問を若干名置くことができる。

2 顧問は、学識経験者のうちから理事会において任期を定めた上で選任する。

3 顧問は代表理事の諮問に応え、代表理事に参考意見を述べることができる。

4 顧問は、無報酬とする。ただし、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。

第7章 理事会

(構成)

第28条 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第29条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職

(招集)

第30条 理事会は、代表理事が招集する。

2 代表理事が欠けたとき又は代表理事に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第31条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において準用する同法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第32条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 当該理事会に出席した代表理事及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第8章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第33条 この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。

2 前項の規定は、この定款の第3条及び第4条及び第11条についても適用する。

(解散)

第34条 この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由によって解散する。

(公益認定の取消し等に伴う贈与)

第35条 この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合(その権利義務)

務を承継する法人が公益法人であるときを除く。)には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(残余財産の帰属)

第36条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第9章 維持会員

(維持会員)

第37条 この法人は、この法人の趣旨に賛同し、後援する個人又は団体を維持会員とすることができる。

2 維持会員は、この法人に会費を納めることとし、会費の基準及びその他維持会員に関する必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第10章 公告の方法

(公告の方法)

第38条 この法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する。

附 則

1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

2 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第6条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

3 この法人の最初の代表理事は青山勳とする。

4 この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。
伊藤國彦、大山健二、北川文夫、小橋賢之、近藤紗智子、田中敦子、田中照周、日野進一郎、檜山伸吾、平田まき子、平林明成、福留正治、藤田賢治、山崎晶弘

5 この法人の最初の業務執行理事は榊誠司、梅崎一夫とする。

◆会員募集中！

是非会員となってご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

●年会費1口は

(1口以上の納入をお願いいたします)

- ・個人・団体・公益法人：2,000円
- ・企業・協同組合：20,000円
- ・学生：無料(対象は大学生・大学院生・高校生、但し就職時は対象外)

●会費の振込先

- ・口座名義
「公益財団法人おかやま環境ネットワーク」
- ・銀行口座 中国銀行 奉還町支店
普通口座 1757367
- ・ゆうちょ銀行口座
01300-8-66727

◆メールニュース(毎月第2・第4水曜日発行)で、各種企画のご案内ができます！

メールニュースには、おかやま環境ネットワークの企画情報や、会員団体等のイベント情報を掲載しています。

各種企画等の案内配信希望の方は、メールにて、件名を『メールニュース配信希望』とし、メールアドレス・お名前(必須)、所属団体・会社名(任意)、企画名、日時、場所、参加費、申込先・締切日等を送信してください。

随時掲載させていただきます。



おokayama環境ネットワークロゴマーク

「おokayama環境ネットワーク」の頭文字をひらがなの『お』をモチーフにして、
環境の青空と若葉を融合し活動を分かりやすく表現しています。
未来に豊かな自然、より良き環境を残したいものです。

公益財団法人 **おokayama環境ネットワーク**

Okayama Environment Network Foundation

〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7(オルガ6階)

FAX : 086-256-2565

携帯電話 : 070-2355-1420

E-mail : kankyounet@okayama.coop

HP : <https://okayama.coop/kankyounet/>

Facebook : 公益財団法人おokayama環境ネットワーク

おokayama環境ネットワーク

検索